

以善会レポート特別編⑧

翻刻『松ヶ丘山崎家略譜稿本』

Ⅱ「遺家訓」(下) Ⅱ

家訓 下

一 御領主様御恩并親先祖の恩片時も忘れ間敷事

一 御家中之御方様へ対し敬ひを尽し可申事

一 仮初ニも無礼仕間敷事

一 高利を取強欲を致す間敷事

一 附御大名様方并御旗本様へ御出入之事

一 商売向心得の事

一 帳合商ひ一切致間敷候事

一 近在村方取持の田地取扱之事

一 諸親類又は近隣并町内之人其外格別懇意の人へ対し心得の事

一 祝儀仏事心得の事

一 不幸并葬式之心得之事

一 先祖遺命の事

御領主様御恩并親先祖の恩片時も忘れ申間敷事

一 惣而恩の難有と云ふ事を忘るゝ時は忽天の罪を蒙むる事目前なり我家漸やく繁昌致し先祖の名跡も続き安堵に暮し候儀は全御領主様の御恩沢にて御政事向御厳正成故悪者も徘徊不致殊に先年飢饉の節も世上騒敷義有之候得共当駄に於而は左様の儀も無之且又遊女めし盛等もなく自から咸々安堵致し居候儀は皆御領主様之御威光の難有による処也其上我考 仏参自性居士より 御上御先々代様御当代様に至り厚き御慈悲を蒙むり御用達相勤め重き御意を戴き拝領物等仕其上御扶持方被下置帯刀御免被成下候義誠に莫大の御厚恩家の面目冥加に余り難有御事何を以て報ひ奉るべき様なし御用金差上候而も御取締も宜敷御返金無相違被下置候儀却而奉蒙利潤を商人の職とは申なから是又

重々難有御事なり例へ御上金（但差上げ切の金なり）等仕候而も年来御利足も頂戴仕り殊に御城下に住居商売都合能く安堵に暮し候儀偏に御上様の御蔭に候得は相当の儀に候然に前文種々の御取扱誠以て難有御事と子孫代々御重恩を忘却仕間敷候若し心得違に而忘却致す時は忽家も滅し身も亡びん事疑ひなし此上万一御上様御臨時御入用多御勝手向御六ツケ敷被為成候節は其時の御用達仲間各分限に応じ御用金差上可申候其上追々御不手操に而御用達の面々は勿論御他借も御多分に而必至と御差支御返金無之御断に相成候儀有之候共只々御重恩を不忘御用に相立候事幸の義と思ひ心よく御請け申上少しも御恨みケ間敷心底持間敷なり右様の時節到来我家身袋向も手薄に相成候共此儀は先祖へ対し憚り候義無之候乍併右様の時節種々の心得有事と而行々の処篤と相考へ可申候例へ其時に当り我身袋向皆限差上候連も中々一方の御防にも不相成候間右様にも可相成見当も有之候ハゞ先其時の御用達仲間の内可然勘弁有之候人を見立て密に相談致し其上御掛御役人様方の内理非明白に相分り随分正しき御人を見立て竊に実意を以て申上御内分の義得と承知仕り私共乍恐ケ様／＼仕り差上度と我力一杯の処申上損失を不顧我身袋無き物と心得御上様御借財追々相滅し被遊候御仕法相窺ひ御上様の御為め第一と思ひ不日に御勝手向御直り被遊候様実意を尽し可申候然共かゝる時節取計ひ方不行届己の功に致し候心得有之候而は諸事相談出来兼却而人の譏りを受け我身一人の難義になり剩へ御上様の御為にも不相成候事あるものなれば先人に先立不申其最実意なる筋に随ひ己の了見も相談致し取計ひ可申候例へ融通いたし候持合の分不残差上候共相残の分にて手前暮し方其模様に従ひ仕法を定取続猶々無怠出精相働俟約を用ひ家内漸く凌居候而偏に御上様御為を第一と御奉公申上候時ハ其内御勝手向自然と御直り被遊候義疑ひなし是誠に御重恩に報し奉る万分の一なり必天道に叶ひ先祖之思召ニも合候而幾々家繁昌せん事必定なり右様の時節家内暮し向如何程艱難致し俟

約を加へ候共御先祖成立の御辛勞に比べ候得ば格別の難義も無
之候半御先祖御辛勞の御恩をも思ひ艱難の暮し中別而家内睦ま
しく万油断無く家業相勤め可申候乍恐 御上様御為ニも相成候
儀先祖への大孝行成と知るへし

高利を取強欲をいたす間敷事

附御大名様方并御旗本様方へ御出入の事

一 高利を貪一旦の利潤にて終に元金を失ひ大損を致す事各知る処
也恐れ慎み可申候元来人に金銀を貸し利足を取候事と漢共に古
来より有之商人の職の様に相成候得共全く人の金銀を借受け候
人は商売向により利潤を考候而借受候か又は能株敷或は田地田
畑の類買受候類の事なれば何れ高利を出し候而は例へ如何程相
働き実意なる人に而も行々元金返済出来兼申ものニ候まして其
人其年々の雜費に不足致し借受候類の者眼前差支出来返済相滞
候事理の当然に候此処能々相考借受方難儀に不相成様随分寡欲
に取計ひ可申候元来利息を取候儀は外商売と事かはり居ながら
利潤を得候事なれば心得方不宜時は自然と冥理に不叶候而終に
は滅亡に及び候儀間々有之候乍併世の中融通の義に候得ば右の
処を合点して借受候人の氣質を能々見定め先方入用道を弁へ慥
成筋合に而何程は金主に相払候而も行々元済の仕法有之か又は
慥成引当有之類心をつけ手前の利潤にも致し可申候

一 御大名様并御旗本様方へ調達金差上候砌相当の御利息も有之候
との縦壹割式分壹割五分に而調達金致し候事有之候得共此儀は
表向利分を引下げ先様眼前の御益ニ可相成候得共迩も御大分の
御中に而夫だけ御借財相減し候義も無之ものニ候而品により益
御借財相嵩み終にハ如何程利安に而も元金無抛御断に相成候而
難儀致し候儀間々有之ものに候此処勘弁の上表向は相当の御利
足ニ少しは引下げ手前方に而は甚利安の積りに相心得年々利差
ひの分元金の方へ振向置候得は年数相立次第自然と元金相済候
様に相成候最此儀ハ取計方不行届候得は最初調達の時節より

追々金高と相成中々利差ひ位の事に而元金済寄候儀無之ものに候間年数相立ち候内此方も調達金相嵩み出金不相続候様に相成終に御取引の御間柄をかき御断に相成り大なる損失致し候儀到来致す事間々有之もの二候其時節 御公儀様へ御願ひ申上候連皆々知る処の通埒明き申すもの二無之候元来金銀貸借の儀は相互に懇意を以て取引致候儀に候処全く手前の行届ざる取計にて損失致し 御上様へ御苦勞懸け候儀元より其理なき事に候此処能々相考可申候猶又世間を見るに 御旗本様方へ調達金致し差上間もなく御返金無之御断わりに相成難儀致し候もの間々有之此儀一体多欲に而実意少きか故也御旗本様方の儀別而御利息も宜しきに付き篤と先様の御様子も不弁只二三年も出金致し先様は如何程御差支二もあれ己相応に利分を得候而すりぬけ候心得より事起るなり中々右様の心得に而は損失致し候事理の当然なり若無抛調達金差上候而御出入も可仕被存候ハ、先づ先様の御様子篤と承知致し終始の処能々考へ前文の通り年数も相立ち候得は御上金致し候心得にて取組可申候左候得は先様必至と御差支の儀も有之時は実意を以て取計い右の余分を以て仕埋方も出来候得ば双方共に長く御懇意の御取引行れ可申候身元相応に相成候而は随分利安に相廻はし候而も暮し方并臨時入用非常手当までも足り可申候乍併手前暮方不締り又は奢りの心候而は如何程高利に廻ハし候而も余りは無之もの二候此上他人の金銀を預り置きたとへ何程利安に而手前方二而何程良き貸口有之骨も不折相応の利得に相成候儀有之候共是は決し而致間敷候例へ無恙相廻ハリ候共全く足事を不知強欲の理に相当り申候万一目利違等候得ば大に難儀致し終に禍ひの種となり可申候恐れ慎べし猶又人より種々名をつけ是は大々講是は大黒講又は夫々仲間積金杯に而利足は如何程とも宜しく候間預り呉れ候様に相頼み候儀有之候共決而預り申間敷候万一不意の損失又は格別に臨時入用相続きは是迄の通り金子廻ハリ兼不手都合に相成共其時に至り世間をかざり張肱を致し内分に而金子借受候儀誠に家の滅亡を招

くの初也かゝる時節尋常の心情に而一旦の恥辱杯を厭ひ猶又此
差支彼差支なと申し決断致し兼候儀必有之もの二候間右の処相
考へ其時宜に随ひ世の見聞を不厭踏切つて万事取縮め年中の入
方を積り暮し方相定め儉約を第一にして家業出精致し候ハゝ不
遠元の姿にも可相成候総而相応の株立候家の跡方もなく滅亡致
し候事は 御公儀様より被仰出候御法度相背候か又は連々借財
を致し相嵩み候而の事に候也恐れ慎み可申事

一 田中御城主本多様へ去る文化五年辰春より御出入被仰付御利足
の儀も少々は利下け追々相働出金致し候ニ付実意に出精致し候
段御感悦被成下午春に至り御扶持方三人扶持被下置冥加至極難
有御事也其後も段々蒙御懇命種々御拝領物等仕り酉春に至り二
人扶持御加扶持被成下重々難有御事也調達金の儀も年々御儀定
通無相違御返金被下置候得ば御蔭を以て年々多分の利潤を蒙り
候儀等閑ならさる御事也相考合向後万一御臨時御入用等格別多
分に相重り漸く御不操合に而必至と御差支も出来候而御返金御
断わりに相成候共随分実意を尽し是迄御厚恩を思ひ聊かも御恨
みケ間敷取計ひ致間敷候若し心得違にて其時の筋により眼前の
損失を厭ひ多年の御厚恩を忘却致し候得ば是全く冥理に不叶我
の難儀に相成可申候勿論取計心得の事は前條（御領主様へ対し候
処に記し置く考合べし）順し其時宜に随ひ勘弁可有之事且又町役
人様方へ丁寧を尽し折々書札を以て御窺可申上候最無抛御頼み
の儀等御座候ハゝ其向により実意を以て御請け申上万事吝嗇無
之様取計ひ可申事

一 松平越前守様へ享和の頃より御館入被仰付当所御本陣に於て御
目見被仰付御紋付御上下被下置冥加至極難有御事也其後文化五
年の頃より少々宛調達金差上候処年々御儀定の通御返金被下置
御蔭を以て多分の利潤を蒙り候義難有御事は又向後如何様儀御
座候共右の御厚恩を忘却仕間敷候尤 御太守様の御儀は格別の
御大家様の御事に候得は中々御勝手御取直しの御仕法杯申上候
儀迎も力の不及御事に候得共早速江戸御屋敷へ参上仕り乍恐御

勝手向之儀相窺ひ実意を以て申上其時宜に随ひ御相談可仕候尤
田舎商人之儀故手前方身元甚手薄之儀等くわしく申上候而可相
成だけ力を尽し可申上候是又前文の儀等能々相考へ取計ひ可申
事其外御出入御大名様方御旗本様右の心得を以て取計ひ可申事
一御紋付御絵符并京家御絵符二而金銀貸出し候儀品により勤め候
人有之候共其儀は決而辞退事縦程能く御威光行れ候共終二ハ冥
理に叶ひ不申身の禍に成り家を亡し候儀可有之恐れ慎み可申候
尤宿々助成又は川々御普請助成等の儀に而御代官所御貸付元入
金才覚又は御私領村方助成金元入等の儀其時宜に随ひ先規の様
子見合其筋合能々聞糺し候上に而差出金致候儀可然き事二御座
候

御家中のお方様へ対し敬ひを尽し可申事仮初ニも無礼仕

間敷候

一御家中重き御方様は不申及例へ末々御組の御衆中其外御家中の
御家来衆御小者達に至迄随分丁寧を尽し仮初にも失礼仕間敷事
也只敬と云ふは心を引締めて物毎大切に思ひ丁寧を尽す事也此
方より丁寧を尽せとも万一先の人思ひの外無理などある時は必
先の人を咎むる心なく唯我敬ひの未だ足らぬと思ひ益丁寧にす
べし或は人より難題を云かける事あらば己れ能く心を引締め我
身を謙遜気を静め声を柔和にして礼儀正しく随分丁寧を尽して
其断を云ふへし其外何によらず敬の心離れ候而は万事に付不宜
候事

一御役人様方は勿論御懇意の御方様へ折々参上仕り御機嫌御伺ひ
可申上候御祝儀御不幸の節も早速参上可仕事五節句杯は当日御
客来にて御取込の儀候ハ、其近日の内参上御窺可申候例へ如何
程御懇情に被成下候共御心易立にて無礼に不相成様随分相慎可
申候勿論参上の節人の評判ケ間敷儀仕間敷候尤先様に而御尋ね
の儀も候ハゞ実意を以て御答可申上候余り慣れ近付候儀却而恐
れ有事也深く心得可申候

一 無抛金子杯御頼みの儀御座候節は心得有事也（此事くわしくは諸親類へ対しの処に記し置考合すへし）尤後先の勘弁も薄く御用立金致し差上利潤など手前暮らし方の引当ニも致し候儀甚不悟の事に候此儀無抛御訳合に而御頼み被遊候ハズ先つ其時の御賄方様か又は其御家へ御出入の御小役人方の内随分慥なる実体の人に御相談致し御為にも相成候か又ハ其時宜により御借財に而も相片付候様子承わり随分実意を以て可申上候尤其金高により何れ右様の儀は独立に而は不宜候間可相成儀も候ハズ其時の御用達仲間又は外人に而も随分実意に而慥なる人を仲間に致し御世話可申上候利息の儀は格別利安に相心得可申候（次に高利を取間敷候処くわしく志るし置考合すべし）然れ共可相成だけ程能く御辞退可申候乍併訳もなく聞入不申候得ば吝嗇に相当り本意を背き終に人々の悪みを受け甚不宜候能々相心得可申候御役人様方は勿論其外と而も御上様の御厚恩を思ひ奉り候得は中々等閑に不相成実意を以て取計ひ可申事右の内に而も御組の衆中又は格別の御小給の御人には其向に依り無抛免れ難き筋に候ハズ小分の事は無利息に而取替差上可申候猶又御賄方様御代官様より被仰付候儀有之候ハズ其時の御用達仲間の振合を以而程良く御受ケ可申上候事

商売向心得の事

一 先代より仕来り候商売随分大切に相励み可申候値段不高様吟味致し其時宜に従ひ仕入方致し出精売捌き可申候定商売と申は時節により至而不引合にて勘定徳用無之事も可有之候得共其時節は只商売冥理上心得候而随分実体に売続可申候其後果して時節迫り甚引合の宜しき事可有之候品により候得共在来の商売にても不引合又は世話多き杯申し休み候儀有之候得共此儀は決而致間敷候只時の様子に随ひ負引差略は可致候

一 正米商ひ并並正綿商ひの儀も大概の数を定置候而年々高下に随ひ掛引仕入売捌可申候其模様に随ひ多少の儀等可有之候得共風

と思入を立候而格別に見越力不相応之売買決而致間敷候例へ程能く思入当り徳用に向ひ候而も売買多分に候得ば自然と混雜いたし徳用少きものに候若し思入り違ひにて損方に相成候得は猶又売損相応の外に有之ものにて損の上損に相成候儀可有之候能々相考へ血氣に任せ候売買決而致間敷候事

帳合商ひ一切致間敷事

一 空米商ひと申事は元來繁華の地には御免場所有之候得共是全く年々の豊凶米穀の有無相計り候為にて且は其所々の助にも相成候儀を以て正米取引の御願にて相済候様相察し申候然共空米商の儀は博奕同様儀に而天地の氣候風雨水旱を賭物にするのみに而国々の米穀平均杯の儀にハ聊かゝわり候儀無之候間第一身元相応の商人杯は甚可恥の事候猶又其損益の処を考候に随分其道に悉しく候共十度に五度は当り五度は外れ候事理の当然に候也左候得ば売買の口錢全く不足ニ相成其上骨折心配の志るし無御座損得の荒きものなれば自然と少の商ひ事ハおろかに相成幾々損失重り家を亡事多く有之例へ片方思入り当り得方になり候得共又片方は損方になり誠に博奕の勝負も同様なり其上身元相応の者張込候て売買取組多分ニ相成候節若し得方に相成候得者殊により其の場表故障出来候而勘定不相立事間々有之猶又損方ニ相成候得は聊の端銀ニ而も不遣候而ハ不相済何れ何に彼につけて損の上に損数難し能々相考へ例へ聊なり共空米商の事決而子々孫々迄不致候様可相心得候且又遠国へ思入にて買注文或は売注文遣わし候儀是右同様の訳合にて其上今一ツの損有之候遠方の事は何れ文通ニて致し候儀売買の度毎少々宛の値段損等も有之旁以て十に七八は損方に相成可申候是又決而致す事堅く無用に候也

近在村方所持の田地取扱の事

一 田地散田元帳并絵図面有歩付委細記置本散田之处定引を致し取

極め置き候間年々散田取立帳先規の通り書抜き取落し無之様取立可申候尤少々の違作は定引も有之候間引遣す二も不及格別の違作候ハ、先規違作の帳面を見合其稻の善惡を見定め其時の地方巧者の人相頼み立会相談の上引方定め無理無之様小作人納得に而取極め可申候若し作人不法に相違之儀申候者候ハ、其年は品により了簡者に致し候か其時宜に随ひ取計べく候尤右様の時節手作を厭ひ候而は田地の位下り申すものに候費を不顧少々手遠たり共手作可致候若散田米少々たり共不参致候者有之は無油断掛合急度取立可申候右様の儀等閑に致し候得は行々散田辻不極に相成終に作人も心得違出来候而迷惑致すもの二候若し田地買受候共高目多き場所又は格別訳もなく高目少き場所決而買受け申間敷候田地も相応に有候得者此上増し候儀不好事二候尤筋合正しく相分り候而無抛増し候儀不苦候且又其時の村役人衆中へ疎遠無之様心掛け可申候

一御年貢勿論村入用等に至る迄大切ニ相心得可申儀第一也尤先規の納辻に引合年々小作人之方へ割付為納其村々庄屋所の御年貢皆済書請取丁寧に引合聊間違等無之様吟味致すべく候扱盛衰は浮世の常道に候得ば数代の後格別に衰へ候節右之田徳を以て家名相続可致の為格別に丹精致し大金の費等不厭田地普請等致し置候儀に候間此処精々相考へ例へ如何様の時節にても売払候ハ勿論一旦の質物等に而も相渡候儀決而致間敷候若し其節何程の難渋到来金子調達不致候而ハ不相成儀候ハ、先諸道具土蔵又は家等売払候而居屋敷并田地の儀ハ決而売申間敷候世間跡方もなく断絶致候儀ハ先商売向不繁昌に相成候而商用元手金手薄く相成候得ば先づ内分に而多分の金額を借込其上借財相嵩み貸入無之時節早く所持の田地を質入に致し表向を凌き飾り内分手段尽果て詮方なく人に相談かけ種々混雑致す事各皆知る処也是全く実意無之より事起る也例へ表向を如何程飾り候共其行先の見当無之事に而他人を欺き終に損失かけ候儀身の滅亡に相成候事理の当然なり右様の時節ハ早く己れより遜下り内分不勝手の事表

向へ出し年中入方を計り其暮らし方取極め家内も同心致し俟約第一二而家業出精致し候ハヽ如何様の災難ニ而も終ニハ立直り候而断絶ニも不及様可相成候此儀人の金銀を預り置申間敷の処に記置候得共猶又心得の為め此処に記し置き候能々相考恐れ慎可申事也

諸親類又ハ近隣并町内の人其外格別懇意の人へ対し心得の事

一年頭五節句は勿論其外折々音信の為め自身相尋可申候先方祝儀不祝儀の節早卒罷越夫々遠近厚薄に随ひ随分懇に可致申候若し病人又は不意の災難等の時節別而懇に度々相尋ね其時宜に随ひ候而先方何成共用向を聞手前相応の儀相勤め可申候猶祖父母伯叔父母御座候ハゞ猶又折々罷越時々機嫌を相窺万事懇に相談致し不何寄随分丁寧を尽し例へ少々珍敷もの有之候節見合夫々へ差上可申候其品如何程輕微なる物ニ而も其志を呈し万事遠り不申様心掛可申候

一金銀無抛借用の儀被相頼候時は先方平生の雜費不足か又は物好等の入用にて訳もなき事ならば程能相断可申候尤無抛達而相頼候ハゞ其人相応に見計若間違返金無之候而も手前迷惑にも不相成程少々無利足にて貸遣わしへく候若間違返金無之御断候ハヽ随分不苦敷段挨拶可致候右様取計ひ候得は長く懇意をかき不申ものニ候若又心得違ニ而利足ニ目をかけ当座の儀理など兼候而訳もなく用立遣し候得は行々間違の節も甚迷惑致したとへ居屋敷等の質物取置候共決而埒明申ものに無之候然共此ケ条の人々ハ等閑ならざる人々ニ候間元来実体ニ而商事相励度候得共少々の元手金ニ差支候而商事いたし兼候者有之候ハゞ心をつけ少々の儀は無利足ニ而貸遣し程能返し候ハゞ又々貸遣し候而先方の不意を為致可申候尤是も金高取定置余分の儀は不宜候又格別難儀に合候か又は連々六ツケ敷相成必至と差支候而相談等かけ候ハゞ随分懇に挨拶致し先方重立候世話人と打合手前方に而も成

丈出精致し是は無利足に而何程又は利安に而何程と申儀相談の上取替遣し可申候先方ニ而も夫々免れ難き親類も可有之其分限に応し為取持其家立行の処見届可申候右様なる時節は其家にても所々に而高利の金子も借請可有之間其向に随ひ繰替遣し候得ば其家大小分限に応じ仕法次第にて相続出来申ものに候尤我等方厚縁の親類に候ハズ此方より其時宜に随ひ可然人に相談かけ実意を尽し仕法相定可申候猶又右の内に而も格別之小家に而身元無之ものニ候ハズ其時宜に随ひ只出し限ニ而合力の方可宜候猶又町内小前格別難儀の者又は手前方元より出入の者又は近在小作田作りの者病難災難に逢候者聞出し次第此方より心付少々宛の合力可致候尤先方より世話人有之合力の頼ミニも来たり候ハズ心能出し遣し可申候然共致し方不宜候得ば却而みようものに相成己れ奢の氣生し暮し方自然と取拡がり音信贈答之事増長致し終にハ世話等也不行届甚迷惑致し候儀可有之此処能々勘弁致し其時宜に随ひ内分に而夫々へ遣し候か又は其近所の者へ相談かけ程能心付遣し候事可宜候若又類焼飢饉杯の節は格別を尽し可申候

祝儀仏事心得の事

一 祝儀仏事の儀は前以 御上様より被仰出も有之手輕に可致儀勿論の事に候成丈質素に取行可申候

一 祝儀の儀と申候而も段々輕重候得共先小兒の三才髪置袴着九歳帯解元服杯又は初節句等の儀其嫡子之事ニも候ハズ随分内端に祝事相調世間よりも祝儀物等受け分限より質素に一汁三菜位の事ニ而夫々御客来を致し可申候尤料理等の儀は見苦敷無之様致し可申候婚礼の儀は一代一度の儀候間少々は見計ひ其時の様子に随ひ世間より每物内端ニ致すべく候女子嫁つぎの支度并男子婿入支度は又質朴ニ致し世間振合よりは内端に致すべく候尤音信物并下々のものへ祝儀の目録等の儀ハ見苦敷無之様心を付べく候次男并次女杯の髪置帯解元服初節句等の儀只家内限りの祝

ひ二而世間へ決而沙汰なしに致すべく候尤無拋方より祝儀もの
貰ひ候共程能相断成丈質素に致し可申候

一 仏事は其年に相当り候年忌無怠相勤め候儀は勿論の事に候得共
只其誠心を厚ふして勤候而質素に執行致し候方尊靈に叶ひ可申
候先つ主人たる者ハ前日より身を清め万事に付心に外事を払ひ
去り一向ニ其尊靈生前の事を思ひ精一に黙念し而孝経一部ツゝ
拝読可致候願くは此家訓をも誦読致し候而尊靈に捧げ申度候た
とへ如何様の儀到来致し候共心に怒る事は勿論言語等粗暴無之
様心懸けへく候右様致し候得バ誠心自然と先靈に通じ承させ給
ふへし若何程大そうに祭事相勤め和尚其外衆僧多く招待致し候
共外見を飾り候志に而ハ必内に誠心無之者ニ候得ば果して先靈
祭りを受給ふ事なからん執行方は先規の通り其靈の厚薄に随ひ
華美無之様質朴專ニ致し万事心を付尊靈の追善可致候其時節客
来の儀も親類近所は勿論祭りニ相当り候尊靈在世の時懇意の人
たとへ其時疎遠ニ候而も無残相招き丁寧を尽し可申候惣而三日
以前よりは御用向の外決而他行致間敷候和尚并衆僧旦那等末山
の外相頼み候儀不宜候尤随分丁寧に尊敬致し可申事

不幸并葬式の心得の事

一 父母の喪に逢て哀戚哭泣する事子たるもの天然の真情也唯人の
応対等も答のみして黙すへし酒の儀は厳しく禁じ其余味あるも
の惣而食ふへからず殊により飲食のため哀戚の情を失ふ事あれ
ば孝道に背き子たるものゝ罪甚大なり懼慎むへし然を世の見俗
としてかたわらより其愁傷を思ひやり却而其情を失ふに至らし
む事心得違の事ニ候葬式等の儀も其分限を不顧華美を尽し亡親
或ハ亡兄杯へ孝弟心を致すと心得費を不厭大そうに執行ふ事反
て非礼に相当り心得違の事なり果して亡靈の悦ひ給ふ事有間敷
か其上甚しきは傍ニ而酒興など催し候事間々有之甚歎しき事也
只主人たる者ハ其時に当り聊の差図にても致し候得者愁傷の体
を失ふに至るものなれば可然人をゑらみ万事打まかせ質素に執

行候様呉々頼置可申候且又僧徒を敬札致し候儀勿論の事に候品
ニより風俗悪しき僧など仏教に託すし欺き事も間々有之ものニ
候得バ心得違に而泥ミ迷ひ候事無之様可心掛候され共猥りに僧
徒を輕蔑し世の風俗に背き候事甚不宜候勿論一七日ハ猶更中陰
のうち随分相慎み仮初ニも他行等致間敷候只朝夕靈前に向香花
燈明供物等生前の如く致し聊尊敬を不失様可慎候其間ニハ孝經
小学の類熟読可致候事也

先祖遺命の事

一 当家先祖立戒定地居士ハ本国山口郷牛頭村内寺ヶ谷と申所より
別家致し定地居士生無得円心居士円心居士生仏参自性居士而予
ニ至り四代凡九十有余年先祖儉勤之徳を以漸く家業繁昌ニ相成
相応に株敷も備り渡世安堵致し候儀誠に難有御事也慈親自性居
士当家子孫の為め其父の教并見聞候事忤家の掟文書貽さん事日
頃心掛け給ふと雖不幸にして去ル午歳の七月はなくならせ給
ふ事是非もなし因而乍恐慈親にかはり日頃承せり候事共并御深
意の処此冊子ニ記置き後の子孫に戒貽す熟読深思し家名相統致
し候様希ふ所ニ候若心得違ニて相背き候者ハ必先祖之罰を蒙む
るのみならず家名相統出来間敷候事恐れ慎むへく候若又末裔に
至り相統人不行跡ニて右之條目ニ背き候ハゞ別家之者は勿論其
時重立候親類近所へも相談の上数度教訓を加へ品により御内分
御懇命の御役人様へも申上候而御異見御頼申上其上聞入無之
益々行ひ不宜候ハゞ先祖の思召ニ替り押込隠居ニ致し家事為構
申間敷候猶又其上ニ而も慎み出来難く不埒も有之候ハゞ捨扶持
二人扶持も遣し小遣ひとし而金五両宛相渡隠居住居等ニ而も志
つらい差置可申候其上に而小遣等不足ニ而彼是難題申候ハゞ表
向ニ而追放し可申候此処先祖の遺言ニ代り候而取計ひ候ニ付聊
無遠慮決断可致候次男三男ニ而も可然ものを見立相統為致へく
候若女子ばかりニ候ハゞ別家の内より可然子供引取相統為致可
申候猶又別家より後見の者を相定并暖簾内実意成取計人店の内

忠信ニ而慥成ものと万事相談ニ而取賄ひ先規の通り仕法堅く相
守家内取締可申候幼年の男子成長又は男子無之別家の内より引
取候子供たり共何れ相続人と相定候ものを心つけ育て上げ凡十
三四歳ニも相成候ハヽ商事向相談致志為見習店卸帳年々為立会
諸勘定仕立可申候猶又其時の後室又者祖母の類有之候ハヽ其気
性により随分丁寧ニ相談かけ店卸帳も出来上之上ニ而前々帳面
と引合一々委しく事の訳を可申上候若又其人心得違又は不行跡
の事も有之候ハヽ其時の差略も可有之候万一是逆も格別不行跡
ニ而家内不治家の難儀ニ相成候儀有之候ハヽ押込隠居に致し可
申候其上ニ而聞入無之候ハヽ前文相続人の振合を以て其人の里
方へ相談之上預け候共いつれ共其時宜ニ随ひ程能取鎮め可申候
也

(続)